2011年度　　LAFANBHAPBYA

国　　語

注　意

1. 問題は全部で16ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その2)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし，マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の ◯ を塗りつぶしなさい。◯で囲んだり╳をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答がイのとき)

1	●	㋺	㋩	㋥	㋭	㋬	㋣

4. 一度記入したマークを消す場合は，消しゴムでよく消すこと。╳をつけても消したことにならない。
5. 解答用紙をよごしたり，折り曲げたりしないこと。

一　次の文章を読んで、後の問に答えよ。

国際機構とは「国々をつなぐ」制度である。主権的な民族国家システムの成長によって[1]〈断片化〉する世界を、〈再びつなぎ合わせる〉のである。そうすることの実際的な理由はあらためて言うまでもない。とりあえずヨーロッパ世界に関してだが、近世における民族国家システムの成長は、相対的に統一性と凝集性のある政治経済システムが解体し、より自律的でより細かな単位に分解するということを意味していた。同時にそれは、人間生活が遮断され、法的正当性をもって戦争を行いうる[2]政治単位の数が増すということでもある。それが好ましくないと言うために、人は世界連邦主義者である必要はない。遮断に不便を感じ、戦争の悲惨を肌身で感じさえすれば、それで十分である。人間の交流や物の流通が増大するにつれ、国境という遮断壁は自ずとおぞましいものになるだろう。とりわけ科学革命と産業革命以降はそうである。また戦争多き世界が好ましいと信ずる人間が多いはずもない。こうして、分断を固定しがちな点と抗争を誘発しがちな点こそが、主権的民族国家システムの乗りこえられるべき属性となっていく。

それは少しく逆説的なことだった。まがりなりにも存在していた中世の統一的な宗教的・世俗的権力が解体し、世界が断片化し始めるのとほぼ同時に、断片化に抗する営みも始まったと言えるからである。もっともそれは、中世の統一的・普遍的な秩序をそのまま復元するということではなかった。そのようにして[3]まるごと旧に復することはもはや不可能だったろう。ウェストファリアの講和（一六四八年）を機に広がり始めた主権的民族国家という制度は、普遍的（全欧的）権力よりは小さく封建領主の権力よりは大きい、いわば実効的に世俗的な権力を行使する上で適度な規模だったのである。民族的（より精確には領域的）アイデンティティの単位としても、それは適性規模を実現するものであったのかもしれない。同時にそれは、〈結合による平和〉に替えて〈分離による平和〉をめざすという思考を具現したものでもあった。他のあらゆる制度同様、民族国家という制度もそれなりに時代の要請を受け、[4]それなりの利点があると認識されて産み落とされたものだったのである。それゆえにこそ全面的な復古も不可能だったのだが、にもかかわらず、それらを〈再びつなぎ合わせる〉営みは始まらねばならなかった。それは、仮に個々の民族

国家にそのような利点があるとしても、それらが複数存在して一つのシステムとなった場合にはその利点にまさに背馳するような欠陥を持つことが、ほどなく明らかになったからである。

言うまでもなく、[5]この時期における民族国家の増殖・民族国家システムの成立という説明は、おおよその歴史記述にすぎない。こののちも、たとえばハプスブルク家の多民族国家は二〇世紀まで存続したのだし、それ以外の地域で成立した民族国家なるものが必ずしも単一民族国家だったわけでもないのである。何より、全世界的な民族国家システムが瞬時に成立したのでは全くなく、おおよそウェストファリアの講和を契機に成立し始めたにすぎない(そしてそれは今なお生成過程にある)。それを踏まえた上で再び考察を進めよう。個々の単位の具現する利点と真っ向から背馳する欠陥とは何であり、何ゆえにそれが逆説的だったのか。

何より、この新しいシステムがもたらした機能的な不都合がある。これはさきにも触れた。つまり、国境を越えた人や物の交流を妨げるだけでなく、[6]国家間の抗争を誘発しやすい面さえあるという点である。確かに個々の民族国家は、封建制の桎梏から脱して人や物の交流を容易にし、国家主権＝統治権の確立によって内部における抗争を抑制する効果を生んだかもしれない。しかし各々の国家が独自の度量衡を持ち、それぞれに衛生基準を立て、てんでに移住制限を設けるとなると、複数の民族国家から成るシステムがただの交流阻害システムにしかならないことも明らかである。その点に関する限り、民族国家システムは封建体制を領域的に少しだけまとめ上げ、中途半端な再編をしたにすぎなかった。人や物の移動への欲求あるいは能力に合わせてつくられたシステムではなく、突き破られるべき境界を築いただけのことである。加えて、〈分離による平和〉もまったく現実のものとはならなかった。ウェストファリアこのかた、国家間の戦争は増えこそ［　A　］減ってはいない。むしろ、国内的に至高の統治権として措定された主権が、その後、対外的な非従属性(自己以外の主体の意思に従わないこと)へと拡張されるに及んで、民族国家システムの抗争誘発性はさらに高まったと言うべきだろう。そればかりか、このシステムにおいて国家間の抗争は法的な正当性すら与えられていた。少なくとも一九二八年まで、国際法上の「戦争」はただの「争い」ではなく、紛争解決のための最後の法的な手段だったのである。交流阻害と抗争助長と、いずれの面を見てもこのシステムが克服すべき課題を持って生まれたも

のであることにほとんど疑う余地はない。

このような事態に対応して国際機構が出現する。比較的早く、このシステムの漸進[a]と歩調を合わせるかのように出現したのは、国際行政連合である。それは度量衡や通信や交通や衛生など、技術的分野で諸国の行政を調整し、人や物の交流を円滑にすることを主目的とするものだった。これに比べて平和／安全保障分野での機構創設は遅く、一八一五年に成立したヨーロッパ協調（英仏露墺普の五国同盟）[7]を別とするなら、本格的な機構としては一九一九年の国際連盟の成立を待たねばならなかった。そうした時間的なズレこそあれ、こうして民族国家は国際機構という制度を通じて〈再び結ばれる〉ことになる。〈再び一つの政体へと融合し始めた〉のではない。すでに述べたように主権的な民族国家という新しい制度はもはやクツガエし[b]ようがなかったから、それを否定して世界連邦や世界国家（といってもヨーロッパに限られてはいたが）をつくるのではなく、あくまでそれらの断片を〈つなぐ〉にとどめるのである。その意味において国際機構という存在は、主権的民族国家システムの機能的な不都合に対処すべく生み出された、いわばすぐれて工学的な解（technological fix）[8]だった。

それが逆説的だったというのは、そこに〈ふたつの近代の相克〉とも言うべき状況が表出しているからである。ひとつの「近代」は主権的民族国家であり、もうひとつのそれは国際機構である。

（最上敏樹『国連システムを超えて』による）

＊ウェストファリアの講和＝旧教国と新教国の間で戦われた三〇年戦争（一六一八～四八）を終結させた条約体制。一五世紀から神聖ローマ皇帝を出していたハプスブルク家の権力を弱体化させることにより、神聖ローマ帝国を解体に向かわせ、代わりにより小さな領域からなる民族単位の領域国家の形成を促したとされる。

問一　傍線部1「〈断片化〉する世界」とはどのような意味か。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　それなりに統一が保たれていた中世的な封建国家が解体し、多数の主権的な民族国家が分立する世界

イ　主権的な民族国家システムの成長によって、統一の保たれていた中世的な人間関係が分割される世界

ウ　中世ヨーロッパに統一をもたらしていた宗教的・世俗的権力が弱体化して、封建領主が林立する世界

エ　中世の統一的・普遍的な秩序を尊重しながらも、各民族のアイデンティティにも十分に配慮した世界

オ　人間の交流や物の流通を容易にすることで、世俗的権力の行使に適した規模に地域が統合される世界

問二　傍線部2「政治単位」とほぼ同じ意味で用いられている語を、文中より漢字二字で抜き出せ。

問三　傍線部3「まるごと旧に復することはもはや不可能だったろう」とあるが、その理由として適切でないものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　主権的民族国家という制度は、実効的に世俗的な権力を行使する上で適度な規模だったから。

イ　主権的民族国家という制度は、〈分離による平和〉をめざすという思考を具現したものだから。

ウ　主権的民族国家という制度は、乗りこえられるべき属性を内包したままに成立をみたものだから。

エ　主権的民族国家という制度は、民族的アイデンティティの単位としても適性規模を実現するものだったから。

オ　主権的民族国家という制度は、それなりに時代の要請を受け、それなりの利点があると認識されて成立したものだから。

問四　傍線部4「それなりの利点」について具体的に述べている箇所を四十字で文中より抜き出し、最後の四字を記せ（句読点や記号も一字に数える）。

問五　傍線部5「この時期」とはいつか。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　古代
イ　中世
ウ　近世
エ　近代
オ　現代

問六　傍線部6「国家間の抗争を誘発しやすい面さえある」とあるが、その理由を次のア～オから選び、記号をマークせよ（解答は一つとは限らない）。

ア　平和／安全保障分野での国際機構の創設が遅れた。
イ　国家間の抗争には法的な正当性が与えられていた。
ウ　民族国家システムは交流阻害システムにしかならない。
エ　国家主権の確立によって、内部における抗争を抑制する効果を生んだ。
オ　国内的な統治権として措定された国家主権が、対外的な非従属性へと拡張された。

問七　空欄Ａには動詞「する」のいずれかの活用形が入る。適切な活用形で記せ。

問八　波線部ａ「漸進」の読みを平仮名で記せ。

問九　傍線部7「墺普」の意味として最適なものをそれぞれ次のア～オ、カ～コから選び、記号をマークせよ。

墺　ア　オランダ　　普　カ　プラハ
　　イ　オークランド　　キ　プロシア
　　ウ　オーストリア　　ク　フィンランド
　　エ　オーストラリア　　ケ　フランク王国
　　オ　オスマントルコ　　コ　フランクフルト

問十　波線部b「クツガエし」のカタカナ部分を漢字に直すとき、最適なのはどれか。次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　遷し　　イ　履し　　ウ　復し　　エ　覆し　　オ　還し

問十一　傍線部8「工学的な解」の意味として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　非人間的な調停策
イ　表面的で技術的な解決策
ウ　工学的知識に基づく結合策
エ　技術分野に特化した調整策
オ　非人文的な発想による施策

二　次の文章を読んで、後の問に答えよ。

よしいゑといひける宰相*のはらから、大和*の掾*といひてありけり。これがもとの妻*のもとに、筑紫より女を率て来てすゑたりけり。もとの妻も、心いとよく、今の妻もにくき心なく、いとよく語らひてゐたりけり。[1]かくてこの男は、ここかしこ人の国がちにのみ歩きければ、ふたりのみなむゐたりける。この筑紫の妻、しのびて男*したりける。それを、人のとかくいひければ、よみたりける。

夜はにいでて月だに見ずはあふことを知らずがほにもいはましものを

となむ。かかるわざをすれど、もとの妻、いと心よき人なれば、男にもいはでのみありわたりけれども、ほかのたよりより、「かく男すなり」と聞きて、この男思ひたりけれど、[2]心にもいれで、たださるものにておきたりけり。

さて、この男、「女、こと人にものいふ」と聞きて、[3]「その人とわれと、いづれをか思ふ」と問ひければ、女、

花すすき君がかたにぞなびくめる思はぬ山の風は吹けども

となむいひける。

よばふ男もありけり。「世の中心憂し。なほ男せじ」などいひけるものなむ、[4]この男をやうやう思ひつきけむ、この男の返りごとなどしてやりて、このもとの妻のもとに、文をなむひき結びておこせたりける。見ればかく書けり。

身を憂しと思ふ心のこりねばや人をあはれと思ひそむらむ

となむ、[5]こりずまによみたりける。

かくて、心のへだてもなくあはれなれば、いとあはれと思ふほどに、男は心かはりにければ、ありしごともあらねば、かの筑紫に親はらからなどありければいきけるを、男も心かはりにければ、とどめでなむやりける。もとの妻なむもろともにありならひにければ、かくていくことを、[6]「いと悲し」と思ひける。山崎*にもろともにいきてなむ、舟に乗せなどしける。男も来たりけり。このうはなり*・こなみ、ひと日ひと夜、よろづのことをいひ語らひて、[7]つとめて舟に乗りぬ。いまは男、もとの妻は帰りな

むとて車に乗りぬ。これもかれも、いと悲しと思ふほどに、舟に乗りたまひぬる人の文をなむもて来たる。かくのみなむありける。

ふたり来し道とも見えぬ浪の上を思ひかけでもかへす［　A　］かな

といへりければ、男も、もとの妻も、いといたうあはれがり泣きけり。漕ぎいでていぬれば、[8]＿＿＿＿＿＿＿＿え返りごともせず。車は舟のゆくを見てえいかず、舟に乗りたる人は、車を見るとておもてをさしいでて、漕ぎゆけば、遠くなるままに、顔はいとちひさくなるまで見おこせければ、いと悲しかりけり。

（『大和物語』百四十一段による）

＊宰相＝参議のこと。参議は国政を司る重職。
＊大和の掾＝大和国（今の奈良県）の国司の三等官。
＊もとの妻＝本妻。
＊男したりける＝「男す」は男性と情を通じる意。
＊山崎＝京都府の地名。ここで船に乗り、淀川を下った。
＊うはなり・こなみ＝後妻と本妻。

問一　傍線部1「語らひてゐたりけり」の意味として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　仲良く過ごしていた
イ　一緒に悪事を企んでいた
ウ　同じ趣味を持っていた
エ　表面上は仲良くした
オ　言い争いが絶えなかった

問二　傍線部2「心にもいれで、たださるものにておきたりけり」の訳として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　大いに心配して、本妻以上に大切に扱うようになった。
イ　噂を全く信じず、ただ大切な人とばかり思っていた。
ウ　女の言い分に耳を傾けず、女を無視するようになった。
エ　噂を気にかけないで、それはそれとして放置した。
オ　激しい怒りにまかせて、家の外に追い出した。

問三　傍線部3「その人とわれと、いづれをか思ふ」という男の問に、女は歌でどのように答えたか。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　他の男性が熱心に言い寄ってきたら、そちらになびくかもしれません。
イ　他の男性から言い寄られても、私はあなたに心を寄せるようです。
ウ　あなたがもっと私を大切にしてくれたならば、あなたのことを思います。
エ　よほどのことが起こらぬ限り、その人もあなたも同じように思っています。
オ　どんなに愛情を示されても、私はその人にもあなたにも心を開きません。

問四　傍線部4「この男をやうやう思ひやつきけむ」の訳として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　夫への愛情がだんだん冷めてきてしまったためであろうか。
イ　夫の情愛をようやく理解することができたのであろうか。
ウ　言い寄ってきた男に、次第に愛情を感じるようになったのだろうか。
エ　言い寄ってきた男に、やがて愛想を尽かしてしまったのだろうか。
オ　この男の言うことを聞かないと恐ろしいと、早くも気づいたのだろうか。

問五　傍線部5「こりずまによみたりける」は、筑紫の妻のどのような性格を強く印象づけることばか。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　失敗するたびに、懲りずにもとの妻に助けを求めるあつかましさ

イ　夫の不信感を買いながらも、懲りずに夫に歌を贈り続けるたくましさ

ウ　裏切られても、懲りずに他人を信じてしまう人のよさ

エ　夫に気づかれながらも、懲りずに他の男性を慕い続ける一途さ

オ　失敗を悔いても、懲りずに繰り返してしまう心弱さと単純さ

問六　二重傍線部「あはれと思ふ」の主語として最適なものを、次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　大和の掾　　イ　もとの妻　　ウ　筑紫の妻　　エ　よばふ男　　オ　親はらから

問七　傍線部6『いと悲し』と思ひける」とあるが、誰が、なぜ「いと悲し」と思ったのか。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　筑紫の妻が、慕っていたもとの妻と、突然挨拶もせずに別れることになったから。

イ　夫が、いざ別れる時になって、筑紫の妻を手放すことが惜しくなったから。

ウ　夫が、こんな結末になるしかなかった運命を辛いことに感じたから。

エ　もとの妻が、筑紫の妻と今まで一緒に暮らして親しみも感じていたから。

オ　もとの妻が、今まで夫をめぐって争ってきたことを懐かしく思ったから。

問八　傍線部7「つとめて」を現代語に訳せ。

問九　空欄Aにふさわしいことばを次の語群から選び、正しい活用形にして記せ。

〔語群〕　けり　　たり　　まし　　めり　　なり

問十　傍線部8「え返りごともせず」の訳として最適なものを、次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　夫ももとの妻も振り返ることはなかった。
イ　夫ももとの妻も追いかけることができない。
ウ　筑紫の妻の歌に返事をすることもできない。
エ　筑紫の妻は戻ってくることもできない。
オ　もう筑紫の妻を取り戻すことはできない。

三

文学者宮沢賢治について書いた次の文章を読んで、後の問に答えよ。

賢治文学の魅力を支えているのは、彼特有の「気質」と「感性」という二本の柱である。気質について特筆すべきは、まったく非凡なというべき幻想癖である。

賢治文学に出てくる仲間たちの魅力は尽きることがない。主星アンタレスを持つさそり座「あかいめだまのさそり」、銀河系のどまん中にある「黒い孔」、石の中で燦然［　A　］光を放つ「貝の火」、水中に生きる「子がにが語るクラムボン」、暗い樹林に生きる「修羅」など、賢治にとって欠かすことができない幻想の主役たちはみな、現実をこえた超常識の空間に生きている。

彼の幻想癖は、すでに若年時代からあらわれていたようにみえる。発端として何かのきっかけがあり、次第に高揚に達し、やがて小康期を迎えて終わる。時期を経て再発し、また高揚と終焉を繰り返すというものであった。それぞれの時期による軽重の違いはあれ、生涯を通じてそのようであった。特に精神上の大きな危機があったのは、以下の時期である。

① 大正三(一九一四)年、十八歳。盛岡中学校を卒業したが、鼻炎のため入院となり、進学も許されず、家業に従うことになった時期。

② 大正十一(一九二二)年、二十六歳。病気療養中の妹トシが死亡し(二十四歳)、*曼荼羅に向かって祈りつづけたという時期。その挽歌は詩集『春と修羅』の中でのアッカン[a]。

③ 昭和三(一九二八)年、三十二歳。農学校教諭を退職し、「羅須地人協会」や肥料指導の活動を始めていたが、肺炎を病み、自宅で病臥。詩集『疾中』の時期。

④ 昭和六(一九三一)年、三十五歳。発熱して東北砕石工場技師の仕事を中断し、自宅で病臥。いわゆる「雨ニモマケズ」の時期。

これらの時期に共通するのは、病による生命の危機への不安と将来への絶望である。いわば人生の転回点だったのだ。そこで自分の真情を[b]ト露したとき、幻想があふれたのである。

賢治の幻想はまったく不意に襲ってくることも、また予兆をともなうこともあった。彼自身「幻想が向ふから迫つてくる」と書いたことがある。賢治はそういうものを、けっこうよく記述していた。幻想は彼の内に居つづけ、さらに大小の象徴にまで高められて[1]日常世界に反撃し、かえって現実世界のほうこそ異空間の幻想であるという洞察にさえ導いたことは、注目すべきである。

幻想の主役たちは、日常の固定観念や因果律や必然の法則を無視し、時間軸上の一点一刹那のうちにくるりと逆転したり、また距離や空間を軽々と飛びこえて往来したりする。太陽系の外のことなども、まるで眼前にあるかのように楽々と、十分な具体性をもって瞬時に展開された。

しかし、並はずれた感受性の持ち主である賢治にとって、幻想の襲来は激しい苦痛であったことを忘れてはならない。絶対的な孤独に置かれ、多くの場合、恐ろしい魔霊が支配する別次元の世界をかかえながら、なお今という現実世界を生きていかねばならなかったのだ。彼はそれに耐えぬき、そこから輝かしい創造の世界を導いた。そこでは*「聖玻璃の風」が吹いているといったことがあるが、このことは私たちに大きな勇気を与えるものである。

賢治はこういうものを、四次元への関心をもって「幻想第四次」「不滅の四次の芸術」「異の空間への媒介者」「第四次延長」などの言葉であらわした。ここでは、これらを総合して「四次元感覚」と呼ぶことにする。

次に感性についてであるが、それは現実をこえた、目に見えない、いわば超時空世界の幾何学的感性というべきものである。先にのべた賢治の幻想風景にしても、単なる偶然やでたらめではない。そこには図形の変化や流動性についての、何らかの原理や法則が存在していたと思われる。この感覚には、当時流行していたアインシュタインの相対性理論の影響が明らかである。

四次元世界の法則は見えない世界を支配する。しかもその法則は、さまざまな幻想の細部で、単なる言葉としてではなく、賢治の中で燃える感情となって生きている。そして彼は、そういうものと通信できると感じていたらしいのだ。

一方、この法則は個々の幻想を制御し、そこに新しい展開を見せさえする。四次元感覚は幻想の暴走を抑え、許し、受け入れる容器であるともいえよう。賢治は次のように書いている。「感ずることのあまり新鮮すぎるとき／それががいねん化すること

は／*きちがひにならないための／生物体の一つの自衛作用だ」。ここでいう「がいねん化」とは、あれこれの観念的命題ではなく、賢治によって捉えられた四次元 [B] の法則にほかならない。

「青森挽歌」は、妹トシの死に寄せたものであるが、詩集『春と修羅』きっての長詩であるとともに、精神的な危機にのぞんで幻想と幾何学とが激しく切り結び、両者が懸命に舞い、魂が一つになって燃え、飛翔してゆくさまを描いた記念碑的な作品である。

（斎藤文一『科学者としての宮沢賢治』による）

＊曼荼羅…仏や菩薩の多くの像を一定の様式で描いた図絵。
＊聖玻璃の風…「玻璃」とは水晶、ガラスのこと。水晶のような清らかな風。
＊きちがひ…不適切ではあるが原文の表現のままである。

問一　「燦然」が「光」の修飾語になるように空欄 [A] にあてはまる平仮名二字を入れよ。

問二　波線部a「アッカン」を漢字に直したとき、その「カン」と同じ漢字を含む語を次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　観点　　イ　刊行　　ウ　完遂　　エ　巻頭　　オ　感嘆

問三　波線部bのカタカナ「ト」を漢字で記せ。

問四　傍線部1「日常世界に反撃し」とあるが、その具体的内容は何か。その説明として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　幻想世界に逃避すること。
イ　日常生活の営みを軽視すること。
ウ　現実の固定観念や因果関係などを打ち破ること。
エ　日常世界における人間の信頼関係を破壊すること。
オ　現実の常識やルールを堅持しながらも、多大な影響をおよぼすこと。

問五　空欄 B に入る最適な語句を次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　支配　　イ　幻想　　ウ　幾何学　　エ　異空間　　オ　自衛作用

問六　傍線部2「幻想と幾何学とが激しく切り結び」について、次の(1)と(2)に答えよ。

(1)　「切り結ぶ」の本来の意味は何か。その説明として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　強く結びつくこと。

イ　離れたり、付いたりすること。

ウ　刀を打ち合わせて切り合うこと。

エ　切れたり、結びついたりすること。

オ　切り裂いたものを再び結びつけること。

(2)　「幻想と幾何学とが激しく切り結び」とは、どのような意味か。その説明として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　幻想世界と現実世界が激しく衝突すること。

イ　超現実世界の幻想と数学的感覚が強く結びつくこと。

ウ　非科学的な幻想と科学的な法則とが激しく反発したり、結びついたりすること。

エ　現実を超えた幻想とある種の原理や法則をもった超時空感覚とが激しくぶつかり合うこと。

オ　時空を超えた幻想の主役たちが、科学的な原理や法則に従って、作品世界で生きていること。

問七　本文の内容に合致しないものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　賢治の幻想は予兆を伴うことがあり、その感覚を賢治自身も文章に述べている。

イ　賢治の幻想世界と四次元感覚は対立するものではなく、融合して作品へと結実した。

ウ　賢治の一生において精神的危機は、病気による生命の不安と将来への絶望が根底にあった。

エ　賢治は時として苦痛を伴う異次元の世界を抱えながらも、懸命に現実世界を生き、創造世界を切りひらいていった。

オ　賢治は幻想に苦しめられ、そこから逃避するための方策として四次元感覚が研ぎ澄まされ、創造の世界へと導かれた。

問八　宮沢賢治と同時代の詩人を次のア～オの中から選び、記号をマークせよ。

ア　北村透谷　　イ　正岡子規　　ウ　永井荷風　　エ　鈴木三重吉　　オ　萩原朔太郎